
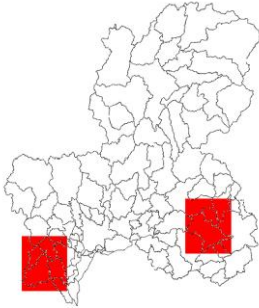


ヤマホオズキ	<i>Physalis chamaesarachoides</i> Makino	絶滅危惧 I 類
(環境省:絶滅危惧 I B類)		ナス科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(高橋弘)
形態の特徴	茎は軟弱で、直立して分枝し、高さ30-50cmになる多年草。葉は薄く、卵形～卵状楕円形で先は尖る。花期は8-9月。葉腋ごとに下向きの1花をつける。花冠は鐘形で白色、長さ7-8mm。花が終わってから萼が成長して緑色の卵球形となる。	
生態的特徴	山地のやや湿った林下に生える。	
分布状況	本州(関東南部、東海、紀伊半島南部)、四国、九州に分布する。県内では県南の西部及び東部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南の西部及び東部の2地域に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良